

### 第3 問題作成部会の見解

#### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 「公共」は、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現実社会の諸課題の解決に向け、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する。

基礎的・基本的な概念や理論、考え方等を活用し、文章や資料を的確に読み解きながら考察する力を求める。

問題の作成に当たっては、実社会の諸課題について理解したり考察したりするために必要な概念や知識に関わる問題、多様な資料を用いて考察する問題などを含めて検討する。

- 「政治・経済」は、社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代における日本及び国際社会の諸課題の解決に向け、政治と経済を関連させて、多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する。

「公共」での学習などを踏まえ、「政治・経済」の学習によって深められた理解を基に政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。

問題の作成に当たっては、各種統計などの多様な資料、さまざまな立場に立って話し合う場面等から必要な情報を読み取り、考察する問題などを含めて検討する。

#### 2 各問題の出題意図と解答結果

##### 第1問

『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」第1問と同じ。

##### 第2問

『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」第4問と同じ。

第3問 生徒たちが、地域社会をめぐる論点について対となる見解をもち、学習や対話をしているという想定で問題を作成した。問1はデータの読み取りとともに国民所得と経済成長の基礎的な知識を問う問題である。問2は全国知事会の決議を例に、選挙制度をめぐり、合区の目的や投票価値の平等と地方の民意や利害との間の緊張関係を問う問題である。問3はフードマイレージの概念の説明を通じて、食料という商品の特徴に視点を広げることを求めた問題である。問4は「思想の自由市場論」という考え方をサーチライトとして、高校での学習内容に基づく資料の理解を問う問題である。問5はふるさと納税に関するメモの読み取りを通じ、地方自治と地方財政に係る基礎知識を問う問題である。問6は災害対策（防災・減災）を題材に、個人の権利との対立や公助・共助の役割を問う問題である。問2の正答率は低いものの成績最上位層の識別力は高く、問4の正答率は高いものの成績最下位層の識別力は高かった。全体として難易度、識別力とも標準的であった。

第4問 新型コロナウイルスの感染拡大とウクライナ侵攻により共通利益や価値の共有の在り方が不透明化している国際政治・経済の現状の把握や、将来的な問題解決の検討に関する問題を作成した。問1は中央銀行を頂点とした金融システムと金利＝利回りの基本理解を問う問題である。問2は貿易とGDPのグラフの読み込みを基に、世界経済の変容についての理解を問う問題である。問3は今日の世界経済の流れに関する基本認識を問う問題である。問4は国際刑事裁判所の設立の国際社会における意義に関し、適切な知識に基づく妥当な推論について問う問題である。問5は国際連合体制における総会と安全保障理事会の権限関係に関する正確な知識を踏

まえて、実際の事件・事例を分析し、説明することができる力を問う問題である。問6は、「アラブの春」の経緯に関する基本的な知識と資料の正しい読み取りを問う問題である。問1は成績最上位層の識別力はあったものの正答率は低かった。利子率と国債などの債券価格との関係についての理解に課題がある。全体としての難易度、識別力は標準的であった。

第5問 労働や雇用をめぐる諸問題や大きな変化について考察、探究する能力を問うている。問1は経済的格差や貧困をめぐる基礎知識を問う問題である。問2はよく似た環境下にある日本と韓国の比較を通じて外国人労働者の受入れ政策を問う問題である。問3は高齢者と障害者に焦点を当て、めざすべき社会像について問う問題である。問4は労働法の成立についての原理的な理解を問う問題である。問5は労働生産性や労働組合組織率について、日本、アメリカ、韓国、ドイツを比較して考察させる問題である。問6は日本的雇用慣行の内容と変化について職務と労働契約に焦点を当てて考察する問題である。問2の正答率は低いものの成績最上位層の識別力は高く、問3の正答率が高いものの成績最下位層の識別力は高かった。全体としての難易度、識別力は標準的であった。

第6問 市場への企業の新規参入の促進について、生徒たちが調査発表計画を準備し、その意義や課題を探究するという場面設定の設問である。問1は基本的な株式会社の機能や、所有と経営の分離による問題とそれへの対応について知識を問う問題である。問2は需要と供給の数量関係の知識を応用して、豊作貧乏的な状況の理解を導けるかを問う問題である。問3は経済成長とイノベーションの関係を踏まえ、GDPの概念や知的財産権保護の影響の理解を問う問題である。問4は検察審査会についての知識を前提として、資料を読み取り理解する力を問う問題である。問5は日本の製造物責任法についての知識と、消費者に生じる被害への対策の仕組みの理解を問う問題である。問6は日本の農業に関する知識を前提として、企業の参入の目的と課題についての統計資料を読み解き、課題への適切な対応策を選択できるかを問う問題である。問4の正答率は低いものの成績上位層の識別力は高かった。全体として難易度は標準的で、識別力はやや優れていた。

### 3 出題に対する反響・意見等についての見解

第1問と第2問については『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」を参照。

出題範囲・内容については、「出題内容に大きな偏りはなく、知識だけでなく提示された資料から読み取ったり、基本的な知識を基にしたりして、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められるなど、さまざまな形式の設問が出題されており、学習指導要領に定められている探究活動を進めるに当たっては、基礎的・基本的な『知識及び技能』の確実な習得が必要であることがわかる」と評価された。分量については、「問題作成方針を考慮すると適切な分量であった」と評価されたものの、「探究する活動の場面設定の中で思考したり判断したりする出題が今後増加するのであれば、文字数を少なくすることができないか、読む文章の内容を精選し、受験者が考察する時間をより確保することができないか、検討すべき」という指摘もあった。難易度についても、「難しい問題から平易な問題まで幅広く織り交ぜられており適正」であり、「解答時間内でおおむね対応できたのではないかと評価される一方で、「思考する時間の確保ができるよう、文章表現、資料や図表の提示の仕方に一層の工夫を求めたい」との指摘もあった。

問題の場面設定については、探究活動の概要を意識して「授業改善につながるメッセージ性が感じられる」との評価の一方で、「大問の導入部分の場面と各設問の関連」が薄いとの問題が指摘されている。配点については、「資料などを読み取って考察する問題や、思考力を用いて解答する問題への配点が大きくなっており」、適切であると評価されている。文章表現・用語や図表の取扱

いについても、「受験者にとって適切であった」と評価されたが、設問に「資料やメモが置かれ受験者が問題を理解しやすいように工夫されている」一方で、「大問の場面設定で会話文となっていて、各小問においても会話文を用いた文章での説明があり、非常に多くの情報量が受験者の負担となっている問題も見受けられた」との指摘もあった。

第3問では、全体の導入部分に場面設定がない形式について、「最初に全体の場面設定を見通せず、各設問において場面設定を個別にイメージする負担が生じる」との指摘を受けた。会話文を用いた設問が多くなっている中で、導入部分の会話文等が情報量の面で受験者の負担となる懸念もあり、こうした形式も必要であると考え、その際に受験者が場面設定を理解しやすい問題となるよう留意していきたい。出題については「主に日本の地域社会経済に関する考え方や用語、制度の理解などを、資料を読み取らせながら問う形式の設問が多く、概念に基づいた正確な知識の活用が必要となる設問もある。一方で選択肢の内容が安易なものや平易な設問もあり、全体としての難易度はやや平易である」と評価された。アメリカの景気変動と物価を題材とした問1は、「基本的な知識を基に資料を読み取り、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くこと」を求める標準的な設問であり、「知識を活用して思考させる良問」や「平易ながら工夫された問い」との評価を受けた。

第4問では、新型コロナウイルスの世界的な拡散やロシアのウクライナ侵攻などに関連させながら、資料の読取りや基本的な知識を基に、「思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問もあり、全体としての難易度は標準である」との評価であったが、「読み取らせる文章や資料が多く、解答までに時間を要するため、受験者の負担は大きかったと思われる」との指摘も受けた。問2は「平易ながら考えさせる大切な問い」、問4も「学習指導要領に基づく見方・考え方や考察する力を意識し、正しい知識に基づく妥当な推察を示した最も適切な記述を選択させており、授業改善につながるメッセージ性が感じられた」と評価されており、今後も思考過程を重視した設問に努めつつ、受験者の過度な負担とならないよう留意したい。

第5問については、生徒たちが関心をもったテーマを探究する場面に即して、学習した内容を踏まえて考察し探究する能力を問う出題のため、「出題の対象は限定されている」が、「特定分野の内容を関連づけて考える学習活動のスタイルとしてのメッセージ性が感じられる」と評価されている。出題については、概念や知識の確認に加え「資料を読み取らせる上で思考させる問題など良問が多く、全体の難易度は標準である」との評価を受けた。問4は「平易ながら資本主義経済の根幹に関わる大切な問い」、問5は「基本的な知識を基に国際比較の資料などを読み取り、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる、標準的な良問である」と評価された。

第6問では、「課題の設定から情報の収集と読み取り・分析、課題の探究、自分たちの考えの説明、論述の概要をまとめた図は『政治・経済』の授業における探究活動の一つのモデルケースとなっており授業改善へのメッセージ性が読み取れる」との評価を受けた。ただし、探究のサイクルとしては、『Ⅲ課題の探究』の後に『Ⅱ情報の収集と読み取り・分析』に立ち戻る場面がない」との指摘もあった。探究活動に関わるさまざまな能力を問うために、学習成果の発表なども含めた場面設定の工夫に努めているが、高等学校の授業改善との関わりについては今後も考慮していきたい。出題については「全体としての難易度は標準だが読み取らせる文章や資料が多く、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題もある」との評価であり、選択肢の多い問題の集中など「バランスには課題がみられる」とされている。問2は知識を基に「資料を読み取り、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる、やや難易度の高い良問である」と評価された。

## 4 ま と め

第1問と第2問のまとめについては『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」を参照。

新しい学習指導要領による新たな科目『公共，政治・経済』の初めての出題として，出題形式にも工夫して問題作成方針の「政治と経済を関連させて，多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する」ことに努めた。その結果，「高等学校教科担当教員の意見・評価」では「高等学校の授業で活用できる題材が多く，図表や資料の内容も多彩で，思考力・判断力・表現力等を問う問題は授業改善へのメッセージになるものと感じられる」との総合評価を受けた。「教育研究団体の意見・評価」でも，「受験者が自ら獲得した知識を活用し，思考力や判断力を働かせ，今日に生きる私たちが抱える社会的な課題をいかに解決したらよいかを当事者意識をもって思考する力があるかを問うとともに思考しているかを問う問題である」との評価である。全体として難易度や識別力も標準的であり，新しい学習指導要領による最初の共通テストに求められる水準の問題を作成することができたと判断している。

各大問の導入部分と設問との関連性が薄いとの指摘については，探究活動に即した出題が出題分野の偏りを招く恐れや，解答の際に過度に導入部分の参照を求めることによる受験者の負担の懸念もあり，大問ごとにさまざまな形式をとりながら全体としてバランスをとっていくことに努めていきたい。また，「大学側から高校生へのメッセージとしての役割があることを踏まえ，リード文については高等学校の学びを想定したものだけでなく，エッセイとしても読み込むと社会科学の基本的理解が広がるような優れたリード文による問題も期待する」との指摘もあり，会話文等により全体としての情報量が増加しているとの指摘も踏まえ，問題作成の工夫を更に重ねていきたい。